

目 次

愛の告白（ヨハネ 21:15～17）	1
父なる神（ヨハネ 14:1～7）	9
創造者への信仰（ペテロ第一 4:17～19）	17
神の全能（詩篇 62）	25
主イエス・キリスト（ピリピ 2:9～11）	33
神の独り子（ヨハネ 1:14～18）	41
聖霊によりて（ルカ 1:34～38）	49
マリアとピラト（ルカ 1:46～55）	57
イエスの生涯と苦しみ（ヘブル 5:7～10）	67
苦しめられた救い主（マタイ 20:17～19）	75
天への道（ヨハネ 14:1～6）	83
キリストを証しするもの（ヨハネ 5:31-47）	91
復活の証人（コリント第一 15:3～8）	101
神の右の座に（マルコ 16:15～20）	109
かしこより来たりて（マタイ 25:31～46）	117
聖霊を信ず（ローマ 8:23～27）	127
ひとつの教会（エペソ 4:1～6）	135
聖なる教会（コリント第一 3:16～17）	145
共同の教会（エペソ 3:14～19）	153
使徒的教会（テモテ第二 2:1～2）	161
聖徒の交わり（ヘブル 12:1～2）	169
罪の赦し（マタイ 18:15～20）	177
からだのよみがえり（コリント第一 15:20～26）	185
愛の神（ヨハネ 3:16）	193

聖句は新改訳 2017 より引用しました。

© 2019, Philip Nakao

まえがき

ここに収録したものは、2019年にウェブページに「礼拝メッセージ」として載せたものです。それに以前の礼拝メッセージ二編を加えて編集しました。

「使徒信条」はイエス・キリストを信じる信仰の要約として、初代教会から今日に至るまで用いられ、多くの教会で共に唱えられ、歌われ、告白されています。

「使徒信条」は、教会の礼拝ばかりでなく、個人の祈りの時、これを口に出して唱え、神への賛美、また、祈りとして捧げることをお勧めします。

そのようにして「使徒信条」を暗記し、「使徒信条」の言葉がおのずと口から出るようになったなら、次は、その意味を学ぶようにしましょう。「使徒信条」は、それによって信仰の要理を学ぶために作られたものですから、意味を理解しないまま、それをオウム返しに口にするだけなら、「使徒信条」を正しく用いていることにはならないと思います。

ここに記されたものは、「使徒信条」への入門にすぎません。ここから、さらに深い学びへと進んでください。これが、その導入になればさいわいです。

2019年12月

中尾フィリップ

使徒信条

我は天地の造り主（つくりぬし）、全能の父なる神を信ず。

我はその独り子（ひとりご）、我らの主（しゅ）、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、処女（おとめ）マリヤより生（うま）れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架（じゅうじか）につけられ、死にて葬られ、陰府（よみ）にくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来たりて生ける者と死にたる者とを審（さば）きたまわん。

我は聖霊を信ず。

聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体（からだ）のよみがえり、永遠（とこしえ）の生命（いのち）を信ず。

アーメン

愛の告白

ヨハネ 21:15-17

21:15 彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たちが愛する以上に、わたしを愛していますか。」ペテロは答えた。「はい、主よ。私があなただを愛していることは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの子羊を飼いなさい。」

21:16 イエスは再び彼に「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛していますか」と言われた。ペテロは答えた。「はい、主よ。私があなただを愛していることは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を牧しなさい。」

21:17 イエスは三度目もペテロに、「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛していますか」と言われた。ペテロは、イエスが三度目も「あなたはわたしを愛していますか」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ、あなたはすべてをご存じです。あなたは、私があなただを愛していることを知っておられます。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」

一、信じるとは

「使徒信条」がこんにちのような言葉になったのは四世紀ごろと言われていますが、それとほとんど変わらないものが、二世紀のバプテスマの式文の中に見られます。「使徒信条」は、初代教会でバプテスマ準備の教材として使われていたのです。ですから、「使徒信条」をガイドとして聖書を学ぶことは、信仰を求めている人やバプテスマを受けたいと願っている人にとって有益なことです。また、す

でにバプテスマを受けた者は、自分がバプテスマを受けたとき、いったい、何を信じたのかを、使徒信条によって思い返し、信仰の基礎を確認することができます。

「使徒信条」は「我は信ず」という言葉からはじまります。「私は信じます」というのですが、「信じる」とは、どうすることなのでしょう。聖書はどう教えているのでしょうか。きょうは、そのことをご一緒に学びましょう。

「信じる」という言葉はふたとおりのケースで使われます。ひとつは、ある事柄がそのとおりにになると確信する場合です。たとえば、「今年は景気が持ち直すと信じます」とか、「もうしばらくすれば、この病気を直す薬が開発されると信じています」と言う場合です。

もうひとつは、事柄よりも人格に関する場合です。「あなたは勤勉な人だから、きっとこのことをやり遂げることができる」と信じています」とか、「彼は誠実な人だから、約束を守ってくれる」と信じています」と言う場合です。この場合、「信じる」という言葉は「信頼する」という意味で使われます。人格への信頼があるので、その人のすることも大丈夫だと確信するというわけです。

聖書で「信じる」という言葉が使われる場合、それは、ある事柄を確信するという、最初のケースよりも、神やキリスト、また聖霊というご人格に信頼するという、第二のケースで使われることが多いのです。それは、使徒信条でも同じです。

私は、はじめに、「使徒信条は、私たちに『何を』信じたのかを思い返えさせる」と申しました。使徒信条には神

の創造のわざ、全能というご性質、キリストの処女降誕、十字架の苦難と死、復活、昇天、再臨、審判、教会、罪の赦し、永遠の命などの、大切な項目があるからです。こうした項目は、よく学び、信じ、確信すべきものです。しかし、使徒信条の「私は信じる」に続く言葉は、項目ではなく、「神」であり、「イエス・キリスト」であり、「聖霊」です。使徒信条では、「信じる」という言葉を、教理の項目を受け入れるというだけでなく、父なる神というご人格、御子イエス・キリストというご人格、聖霊というご人格に信頼するという意味で使っています。

何かの事柄を信じるというとき、英語では“I believe that ...”と言いますが、「神を信じる」というときには“I believe in God”と言います。ラテン語では“Credo in Deum”、ギリシャ語では“πιστευω τω θεω”と言い、英語の“believe in ...”と同じ言葉使いになっています。「信じる」とは、私たちが神の中に（“in”）身を任せることであり、たんに神が存在することを認めることや、神についての何かの事柄を受け入れるということだけではなく、ご人格である神に、自分を任せる、信頼するという行為なのです。

二、神への信頼

ヨハネ 14:1 でイエスは「神を信じ、またわたしを信じなさい」と言われました。英語では“Believe in God; believe also in me.”と訳されますが、ギリシャ語を直訳すれば“Believe into God; believe also into me.”となります。「信じなさい」という言葉のあとに、英語の“in”に相当する言葉ではなく、“into”に相当する、ギリシャ語“εἰς”が使われていま

す。イエスは、「信じる」というのは、神に向かって進み、キリストのうちに留まることであると言おうとされたのです。

日本の押し入れは、ふとんを出し入れするので、大きく作ってあります。私は子どもがまだ小さいころ、ふとんを敷いて空になった押し入れの上の段に子どもをのせ、「お父さんがうけとめてあげるから、そこから飛びおりてごらん」と言って、子どもをジャンプさせて遊んだことがあります。子どもは最初、ためらいましたが、やがて、ぴよんと私の胸に飛び込んできました。父親を信頼したので、そうしたのです。私たちが神を信じ、キリストを信じるというのも、同じです。神が、キリストがどのようなお方なのか、まだよく分からなかったとしても、神が私を受け止めてくださる、キリストが「わたしのもとに来なさい」（マタイ 11:28）と招いていてくださる、そのことが分かって、神に立ち返り、キリストのもとに行く、それが「信じる」ということなのです。

皆さんも、小さい子どものような素直な心になって、父なる神のふところに、イエス・キリストの腕の中に、飛び込んでみませんか。今、どんな悩みや苦しみ、重荷があったとしても、それもいっしょに神のところへ持っていく、キリストの手の中に任せるのです。そうするなら、大きな平安と、確かな助けが、私たちの信頼を通して、神から与えられます。

三、神への応答

使徒信条の「我は天地の造り主、全能の父なる神を信

「試し読み」はここまでです。

お気に入りでしたら

ご注文ください。



Penguin Club

www.penguinclub.net